令和6・7年度　校内研究　研究構想図

【学校教育目標】

・かしこい子　・思いやりのある子　・たくましい子

【主題設定の理由】

・令和４・５年の研究を通して、児童が学習の中で自分の考えをもち、交流し合えるようになったという成果があった。

・自己肯定感については児童間で差が大きくなったという課題もあった。

【めざす学校像】

笑顔・あいさつ・思いやりがあふれる本木小

○子どもが主役となり、学ぶ喜びを実感できる学校

○誰もが居心地のよい安全な学校

○保護者や地域から信頼される学校

【めざす児童像】

「自分も人も大切にする子」「自分で考え行動する子」「自分の言葉で表現する子」「チャレンジする子」

（自己肯定感　コミュニケーション）　（主体性）　（表現力）　（向上心、忍耐力）

分かる・できる授業づくり

【研究主題】

「自分も相手も大切にする児童の育成」

～深い学びに向かうための指導の工夫～

児童が安心できる集団づくり

【研究仮説】

「深い学び」を積み重ねることで、児童の学力は向上し、人権意識も高まるだろう。

学習活動の充実

交流活動の活性化

研究主題に迫るための手立て

【学力向上に向けて】

○研究授業（年間８回）

○OJT 研修

○放課後補習教室

（ぐんぐんタイム）

○ペア・トリオ学習

○足立スタンダードの徹底

○交換授業、教科担任制

○教員間での日常的な

授業公開及び意見交換

○基礎基本の徹底

（漢字小テスト　計算コンクール等）　など

【深い学びに向けて】

○個別の人権課題への取組

・子供　・高齢者

・障がい者　・同和問題

・外国人　・性的指向

・インターネットによる

人権侵害

・北朝鮮による拉致問題

・災害による人権問題

○俳句創作

○WEBQU および hyper-QU

○自尊感情測定尺度

など

【人との関わりについて】

○たてわり班活動

○もときスポーツフェスティバル

○人権集会

○人権の花

○人権ポスター

○人権作文

○クラブ・委員会活動

○本木本気プロジェクト

○本木スマイルフラワー

など